

竹林化学工業株式会社
安全データシート作成：2021年04月08日
改定①：-

1. 化学品及び会社情報

製品名：Bクロス
会社名：竹林化学工業株式会社
住所：大阪府東大阪市洪川町3丁目1番43号
担当部門：品質管理部
電話番号：06-6721-6165
FAX番号：06-6720-7308
緊急連絡先：06-6721-6165
奨励用途と使用上の制限：工業用
整理番号：

2. 危険有害性の要約

重要な危険有害性及び影響：該当なし
GHS分類
物理化学的危険性
引火性液体：分類できない
健康に対する有害性
急性毒性（経口）：分類できない
（経皮）：分類できない
（吸入；気体）：分類できない
（吸入；蒸気）：分類できない
（吸入；粉じん及びミスト）：分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性：分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：分類できない
呼吸器感作性：分類できない
皮膚感作性：分類できない
生殖細胞変異原性：分類できない
発ガン性：分類できない
生殖毒性：分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)：分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)：分類できない
誤えん有害性：分類できない
環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性)：分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)：分類できない
オゾン層への有害性：分類できない

竹林化学工業株式会社

GHSラベル要素

絵表示	: なし
注意喚起語	: なし
危険有害性情報	: なし
GHS分類区分に該当しない 他の危険有害性	: 多量に長時間バサルト繊維を吸引すると呼吸器系に障害を生じる恐れがあります。 皮膚に対して一時的に炎症を生じることがあります。
注意書き	
[安全対策]	: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用してください。
[廃棄]	: 廃棄する場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に従い「がれき類」または 「ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず」として処理してください。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分	: 混合物
成分及び含有量	: ① バサルト繊維 99.9
	a 二酸化ケイ素 57.7~62.0
	b 酸化アルミニウム 16.5~19.5
	c 酸化カルシウム 5.5~7.0
	d 酸化マグネシウム 3.5~5.5
	e 酸化ナトリウム 3.0~5.5
	f 酸化ニカリウム
	g 二酸化チタン 0.5~1.5
	h 三酸化二鉄(Ⅲ) 5.5~8.5
	i 酸化鉄
	j 不純物 <1.0
	② ガラス繊維 0.1

化学式又は構造式	: ①
	a SiO_2
	b Al_2O_3
	c CaO
	d MgO
	e Na_2O
	f K_2O
	g TiO_2
	h Fe_2O_3
	i FeO
	j -
	② -

官報公示整理番号(化審法)	: ① -
	a 1-548
	b 1-23
	c 1-189
	d 1-465
	e 1-495
	f 9-2423
	g 1-558
	h 1-357
	i 1-357
	j -

竹林化学工業株式会社

② -

官報公示整理番号(安衛法) : -

CAS番号 : ① -

7631-86-9

1344-28-1

1305-78-8

1309-48-4

1313-59-3

12136-45-7

13463-67-7

1309-37-1

1345-25-1

-

② -

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
水又は温水でうがいさせ、異常があれば医療処置を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 皮膚が過敏な人やアレルギー体質の人はかぶれたりする恐れがあるので、
速やかに清水で十分洗浄し、異常があれば医療処置を受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な水で15分以上洗眼すること。次にコンタクトレンズを着用していて
容易に外せる場合は外せること。その後も洗浄を続けること。医師の診断/手当を
受ける。
- 飲み込んだ場合 : 大量の水を飲ませ吐かせた後異常があれば医療処置を受ける。
- 最も重要な兆候症状 : 通常の使用条件下では粉じんの発生は想定されないが、製品を細かく粉砕
又は過酷な条件で加工・使用した場合、微量の吸引性粉じんを生じる場合がある。
長期にわたる粉じんの吸引により、呼吸器に障害を起こす恐れがある。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 水噴霧、泡消化剤、粉末消化剤、炭酸ガス、乾燥砂等
- 特有の危険有害性 : 本製品は不燃性である。周辺で火災が発生した場合、可能であれば製品を移動し、
周辺の状況に応じた方法で消火すること。消火作業の際には、煙(フューム)を
吸引しないように適切な呼吸用保護具を着用する。
- 特有の消火方法 : 危険でなければ、火災区域から製品容器を移動する。
安全に対処できる場合は、着火源を除去する。
消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必要に応じて自給式の呼吸用保護具、眼や皮膚を保護する
耐熱性の保護具(耐熱性の保護衣、耐熱手袋、ゴーグル型保護メガネ、
自給式呼吸器等)を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 適切な個人用保護具を着用する。粉じんが発生している場合、認可された呼吸用保護
保護具及び緊急時措置 : 粉漏れ時は、粉塵発生に注意して掃除を行う。
- 環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法 : 飛散した製品を掃き集めるか、真空掃除機等で吸引し、可能な限り飛散を防止し、
及び機材、回収、中和などの : 空容器等に回収する。

竹林化学工業株式会社

- 浄化方法 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い時の技術的対策 : 局所排気装置、全体換気等で粉じん等の発生を防止する。
取扱い時に飲食又は喫煙しないこと。
使用後は手をよく洗うこと。
- 保管時の技術的対策 : 直射日光を避け、換気の良い涼しい場所に保管する。
保管場所には必要な照明器具と換気設備を設ける。
高温多湿を避け、室内で保管する。
8. 暴露防止及び保護措置
- 設備対策
- 製品の管理濃度、許容濃度
- 管理濃度 : 設定されていない
- 許容濃度 : 人造鉱物繊維として^{*1}:1繊維/ml
二酸化ケイ素(吸入性結晶質シリカとして)^{*1}:0.03mg/m³
二酸化ケイ素(吸入性結晶質シリカとして)^{*2}:0.1mg/m³
酸化アルミニウム^{*1}:1mg/m³(第1種粉じんとして)、2mg/m³(総粉じんとして)
酸化アルミニウム^{*2}:10mg/m³(吸引性粉じんとして)
酸化カルシウム^{*2*3}:2mg/m³
酸化マグネシウム^{*2*3}:10mg/m³
二酸化チタン^{*3}:10mg/m³
酸化鉄^{*3}:10mg/m³
- 設備対策 : この製品を貯蔵または取り扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置することが望ましい。
粉じん等の発生を防止するため、作業場には適切な局所排気・全体換気装置を設置すること。
- 保護具 : 適切な呼吸用保護具、保護手袋、安全メガネ(ゴーグル)、保護衣を着用すること。
- 衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。
- *1: 産業衛生学雑誌、許容濃度の勧告(2019.5.22)
*2: UK EH40/2005 Workplace exposure limits(2020)
*3: US-ACGIH: TLV-TWA(2019)
9. 物理状態
- 物理的状态
- 物理的状态 : 連続糸
色 : 銅から金茶色
臭い : 溶剤臭あり。
- 物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲
- 融点/凝固点 : データなし。
沸点又は初留点及び沸騰範囲 : >1400°C
- 可燃性 : データなし。
- 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界
- 爆発限界 上限 : データなし。
爆発限界 下限 : データなし。
可燃限界 : データなし。
- 引火点 : データなし。
自然発火点 : データなし。
分解温度 : データなし。

竹林化学工業株式会社

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| pH | : 中性 |
| 動粘性率 | : データなし。 |
| 溶解性 | |
| 水溶解性 | : データなし。 |
| 溶媒溶解性 | : データなし。 |
| n-オクタノール/水分配係数(log値) | : データなし。 |
| 蒸気圧 | : データなし。 |
| 密度及び/又は相対密度 | : 2.6~2.8g/cm ³ |
| 相対ガス密度 | : データなし。 |
| 粒子特性 | : データなし。 |
| その他のデータ | : 不燃 |
10. 安定性及び反応性
- | | |
|------------|---------------------------------|
| 安定性 | : 通常の取扱い条件において、光、熱、衝撃に対し化学的に安定。 |
| 危険有害反応可能性 | : 通常取扱い条件において、危険有害な反応性なし。 |
| 避けるべき条件 | : 混触危険物との混合、粉じんの発生 |
| 混触危険物質 | : フッ化水素、塩酸、強酸化剤、酢酸ビニル |
| 危険有害な分解生成物 | : 情報なし。 |
| その他 | : 情報なし。 |
11. 有害性情報
- 製品の有害性情報
- | | |
|------------------|---|
| 急性毒性 | : 二酸化ケイ素(CAS7631-86-9)
LD ₅₀ >5,000mg/kg(ラット-経口) ^{3, 4}
4-LC ₅₀ >0.69mg/L(空气中濃度:分析値、ラット-吸入) ^{3, 4} |
| 皮膚腐食性/皮膚刺激性 | : 酸化カルシウム(CAS1305-78-8) ⁴
皮膚に強う刺激性を示す。 |
| 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 | : 酸化カルシウム(CAS1305-78-8) ⁴
粒子状の酸化カルシウムが眼に重度のやけどを引き起こす。 |
| その他の有害性情報 | : 通常の使用条件下において、急性および長期的な有害性の懸念は低いが過剰な摩擦や微粉碎による粉じんの発生や加熱によフェームの発生等が想定される場合、眼への刺激や呼吸困難等を起こす可能性がある。取扱場所においては、本製品由来の粉じんやフェームによる作業員への暴露を最小にするため、全体換気局所排気、保護手袋や保護マスク等の適切な個人用保護具の着用が推奨される。 |
- 上記以外の有害性情報なし
12. 環境影響情報
- 製品の環境影響情報
- | | |
|-------------|--|
| 生態毒性 | |
| 水生環境有害性(急性) | : 酸化ナトリウム(CAS12136-45-7)
魚類:96h-LC ₅₀ =917.6mg/L(OECD TG 203)
甲殻類(ミジンコ):48h-EC50>580-670mg/L(OECD TG 202) |
| その他のデータ | : データなし。 |
13. 廃棄上の注意
- | | |
|-------|-----------------------------|
| 残余廃棄物 | : 廃棄においては、関連法令や地方自治体の条例に従う。 |
|-------|-----------------------------|

竹林化学工業株式会社

地方自治体より許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方自治体が処理を実施している場合はその基準に従って処理する。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規や地方自治体の基準に従って適切に処理する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損・腐食・漏れがないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

緊急時応急措置指針番号 : 該当しない

15. 適用法令

国内適用法

化審法 特定化学物質 : 該当しない。
監視化学物質
優先評価化学物質

安衛法 危険物 : 該当しない。
表示 : 二酸化ケイ素(別表第9-165の2)二酸化チタン(別表第9-191)
有機則 : 該当しない。
特化則 : 該当しない。
通知対象物質 : 二酸化ケイ素(別表第9-165の2)二酸化チタン(別表第9-191)

毒物劇物取締法 : 該当しない。
化学物質管理促進法(PRTR法)
: 該当しない。

国際法令 : 米国EPA:TSCA(Active)
欧州REACH:登録済(既存物質)
韓国:K-REACH登録済(既存化学物質)

16. その他の情報

引用文献

- 1) JIS Z 7252:2014 GHSに基づく化学品の分類方法(日本規格協会 発行)
- 2) JIS Z 7253:2019 GHSに基づく危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)(日本規格協会 発行)
- 3) 英文SDSより引用
- 4) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)

※ ここに記載した情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学製品には未知の有害性がありうるため、取扱いには細心の注意が必要です。使用前のテストを含め、本品の適性に関する決定は使用者の責任において行ってください。

記載内容の問合せ先

会社 : 竹林化学工業株式会社
担当部門 : 品質管理部

竹林化学工業株式会社

竹林化学工業株式会社

竹林化学工業株式会社